



うえまつ けんいち
植松 健一
(至誠)

富士山噴火についてのハザードマップ改定に伴う避難計画の策定について

問 市街地のほとんどに噴火後6時間で溶岩流が到達すると予想される。避難対象エリアについての考え方は。

部長 市内において新たに中規模及び小規模の噴火の想定火口が追加され、想定される火口の位置が市街地に近くなったことにより、噴火の際の被害想定エリアが広くなり、今までより早く避難しなければならない状況であり、避難対象エリアなど避難計画を改定する必要があると考えている。

問 市外への避難を余儀なくされることが予想される。関係自治体との協議が必要と予想されるが、今の時点で考えられることは何か。

部長 県中部及び西部が受入れ地域となって

おり、県が受入れの調整をし、避難することとなっている。

問 当市の避難計画改定に向けたスケジュールと取組について。

部長 富士山火山防災対策協議会において広域避難計画が改定される予定となっているが、遅れが生じているとの発表があった。本市としては令和4年度に、新たに庁内に検討委員会を立ち上げ、噴火時の初動体制を検討していきたいと考えている。

市長 広域避難計画の発表が延期となっているが油断してられない。最悪の状況を考え、噴火した場合にどのように避難したら良いか調査を試みるべきだと考えている。県の指示を待っているのではなく、地元ことは地元でしっかりと対応していくことが市民の命と暮らしを守ることに繋がる。市独自の方法を今から検討するように指示しており、については全庁的にやっていく必要があり、対策本部のようなものを設置して行っていくべきと考えている。



ほそざわ さとる
細沢 覚
(育成)

小学校の抱えている問題について

問 公共建築物長寿化計画における、トイレの改築工事の進捗状況に関して。

部長 これまで1年に1棟の改修を行っていたが、令和3年度から1年に2棟改修している。

問 子ども目線からのトイレの改築はどう考えているか。

教育長 トイレを我慢している児童や和式便器を家庭で使用していないため練習してくる児童がいるという教育委員会として心苦しい状況。改修には大変費用がかかるが、市長の理解があるので早く改善できるよう努力する。

問 最近市内での交通事故が多発している。児童の通学路の点検について伺う。

教育長 毎年教職員が通学路を実際に歩き、点検を行っている。現在は大富士小南側の道路に

ガードパイプ設置に向けての作業中であり、継続して安全対策を実施していく。

問 児童が安心して通学できるよう市主体で防犯カメラを設置する考えはあるか伺う。

部長 地域を熟知している自治会が設置主体となることで、最適な場所の選定等ができると思う。なお、防犯カメラを設置する自治会に対し設置費用を補助する制度では、プライバシーに関する課題があり、令和3年度30台設置を予定していたが7台の設置にとどまった。

問 プライバシーの課題は理解しているが、児童の安全を第一に考えるべきと思うが。

市長 これからは、市として必要なところには積極的に防犯カメラを設置できる方向に転換していくことを考えている。

問 放課後児童クラブの広場及び駐車場への照明の設置に関して伺う。

部長 各児童クラブにより状況が異なるので、それぞれの状況に応じて判断していく。